

産地競争力の強化

(都道府県名:北海道)

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした整備事業)

※については目標未達成事業についてのみ記載した。

支庁名	市町村名	事業実施主体名	作物等区分① (対象作物・畜産等名)①	政策目標①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績	事業内容(実績)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価(※)	都道府県の評価(※)	
						計画時 (平成20年)	1年後 (平成21年)	2年後 (平成22年)	3年後 (平成23年)	目標値 (平成23年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
上川	美深町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)農用地面積が地域平均値の7割に対し250%	計画時 (28.0ha)	81.7ha	81.7ha	81.7ha	70.0ha	127.9%	単位当たりの労働時間が30.6%削減した	農業用機械 6台 乳牛導入 28頭	24,392,990	10,949,000				13,443,990	H19.3.31		
オホーツク	遠軽町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し142.9%	計画時 (28頭)	41頭	43頭	42頭	40頭	116.7%	家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し150%となった。	▲畜舎改修 162.9㎡ ハイフライン 一式 バルククーラー 1台 ミキサー 1台 乳牛 40頭	25,564,700	11,267,000				14,297,700	H19.3.31		
日高	門別町	北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し142.9%	計画時 (42頭)	63頭	63頭	65頭	60頭	127.8%	家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し154.8%となった。	畜舎改修 120.96㎡ ハイフライン 一式 バルククーラー 1基 ハンクラー 一式 農業用機械 8台 乳牛 40頭	46,450,597	19,835,000				26,615,597	H19.2.23		
十勝	広尾町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し154.3%	計画時 (28頭)	-	50頭	50頭	54頭	106.1%	製品全出荷量に占める秀品の割合が3.9ポイント増加した	原料製品荷捌作業棟 1棟 トマト選別設備一式	341,503,050	170,751,000	8,100,000	452,050	162,200,000	H21.9.10			
十勝	広尾町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し154.3%	計画時 (35頭)	49頭	50頭	50頭	54頭	78.9%	家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し142.9%となった。	乾燥調製施設 表・大豆乾燥調製施設 1棟 大豆乾燥施設 1棟 計量・自主検査施設 1棟	53,648,425	24,811,000			28,837,425	H18.12.25	営農開始後から、既存施設を利用しながら順調に飼養頭数を増加させてきたが、22年度以降既存施設の老朽化により増頭に必要な育成牛の飼養スペースが不足する事態が発生してしまい、23年度時点では目標頭数である54頭に達することができなかった。しかし、23年末に育成舎を新設することが出来たため、目標達成に向けた増頭に取組んでいる状況にある。(24年8月末時点で産牛頭数54頭) 今後とも、受益農家の更なる経営安定に向け、地元関係機関と連携を図っていきたい。	平成23年度では、目標達成することができなかったが、現在、増頭に向けて努力しており、来年度は、目標達成が見込まれる。	
釧路	浜中町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)農用地面積が地域平均値の7割に対し144.2%	計画時 (36.8ha)	53.0ha	53.0ha	53.0ha	53.0ha	100.0%	農用地面積が地域平均値の7割に対し144.0%となった。	畜舎改修 491.14㎡ ハイフライン 一式 ハンクラー 一式 バルククーラー 1基 給餌車 1台 農業用機械 2台 乳牛 40頭	56,958,557	26,286,000			30,672,557	H19.1.26			
釧路	標茶町	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)農用地面積が地域平均値の7割に対し174.5%	計画時 (29.4ha)	51.3ha	51.3ha	51.3ha	51.3ha	100.0%	農用地面積が地域平均値の7割に対し174.5%となった。	畜舎改修 326.16㎡ ハイフライン 一式 ハンクラー 一式 バルククーラー 1基 スラリーポンプ 一式 給餌車 1台 農業用機械 4台 乳牛 40頭	47,459,834	20,921,000			26,538,834	H19.1.26			
釧路	鶴居村	(財)北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し142.9%	計画時 (42頭)	64頭	69頭	68頭	61頭	136.8%	家畜飼養頭数が地域平均値の7割に対し161.9%となった。	畜舎改修 792.66㎡ ハイフライン 一式 給餌車 1台 農業用機械 5台 乳牛 40頭	45,620,109	18,524,000			27,096,109	H19.1.26			
根室	別海町(18別海)	財団法人北海道農業開発公社	畜産生産基盤育成強化(乳用牛)	生産性向上	【畜産生産基盤育成強化】(離農跡地等の経営継承)農用地面積が地域平均値の7割に対し190.5%	計画時 (31.5ha)	76.4ha	76.1ha	66.0ha	60.0ha	121.1%	当該農業機械等利用に係る燃油の使用量が27.7%削減した	遠赤外線乾燥機 5t×4基	10,164,000	5,082,000	0	0	5,082,000	H21.3.30			



産地競争力の強化

(都道府県名:北海道)

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした整備事業)

※については目標未達成事業についてのみ記載した。

支庁名	市町村名	事業実施主体名	作物等区分① (対象作物・畜産等名)①	政策目標①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①					成果目標の具体的な実績	事業内容(実績)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価(※)	都道府県の評価(※)		
						計画時(平成20年)	1年後(平成21年)	2年後(平成22年)	3年後(平成23年)	目標値(平成23年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費				その他	
後志	蘭越町ほか4町村	ようてい農業協同組合	【土地利用型作物(稲)】	品質向上	【土地利用型作物(稲)】 (品質分析に関する目標) 品質分析(米の内部品質)の結果について、 ①タンパク値を0.1ポイント低下 ②アミロース値を0.3ポイント低下	タンパク値	6.9%	-	7.1%	6.9%	6.8%	0.0%	タンパク値が低下しなかった。	色彩選別機(200ch)一式 既存色彩選別機改造(異物センサー等の取付)一式	82,110,000	39,100,000			82,110,000	22.3.31	米の品質については、その年の天候に左右されやすくタンパク値やアミロース値が不安定な状況にあります。色彩選別機・異物センサー増設により、「安心・安全」な米を生産する体制が構築され販売先に対し、安心できる米の供給が可能となり、また新しい色彩選別機については、活青粒を除去しないことから、歩留まりも向上し、事業の効果として生産者の理解も得られたと感じている。	アミロース値については目標以上に下げることが出来たが、タンパク値については登熟期の好天のために粒厚の肥大が良好で、最終的な収量は確保できたものの、融雪の遅れによる移植作業の遅れや6月の日照不足による初期生育の不良のために穂数、粒数ともに少なく、22年よりは下がったものの、現況年と同様の値に止まり、目標未達成となった。 今後は稲わらの搬出、ケイ酸質資材の施用や土壌診断に基づく適切な窒素施肥等の徹底により、気象条件に左右されにくい低タンパク米生産を目指す。
					アミロース値	20.0%	-	18.8%	19.4%	19.7%	200.0%	アミロース値が0.6ポイント低下した。										
上川	鷹栖町	共栄第5ライスセンター	【原油高騰対策(農業機械等(穀物乾燥調製施設))】	生産性向上	【原油高騰対策(農業機械等(穀物乾燥調製施設))】 (農業機械等利用における省エネルギー化に関する目標) 当該農業機械等利用に係る燃油の使用量を22.2%削減 【原油高騰対策(農業機械等(省エネルギー化に関する目標))】 (農業機械等の利用にかかる労働時間の目標) 当該農業機械等利用に係る労働時間の増加割合が0%以下	26.94% t	-	14.50% t	26.40% t	20.95% t	9.0%	当該農業機械等利用に係る年料理使用量が2.0%削減	穀物遠赤外線乾燥機 9基 (6,500kg/基)	27,877,500	13,938,000			13,939,500	22.3.31	今年度は目標としていた燃油使用量削減は達成できなかった。要因としては初期水分値が高く仕水分値にするのに時間がかかったことがあった。しかし、昨年度は達成できたので、次年度以降もマニュアルを徹底し燃油使用量の削減に努めている。	昨年度においては、成果目標が達成されていたが、本年度は収穫に係る初期水分値が高いまま作業を行ったことにより目標数値には届かなかった。また、目標数値に届かなかった原因が明確にされていることから、今後、これらの課題を解決することにより成果目標が十分に達成できるものと判断できる。	
					0.27hr/10a	-	0.21hr/10a	0.21hr/10a	0.23hr/10a	129.9%	当該施設に係る労働時間が22.2%削減											
オホーツク	上湧別町	えんゆう農業協同組合	【輸入急増野菜】	輸入急増農産物における国産シェアの奪回	【輸入急増野菜】(出荷規格の向上に関する目標)たまねぎの全出荷量のうち秀品の出荷割合を15.6ポイント増加	74.0%	-	96.7%	97.1%	89.6%	148.1%	上位規格品の割合が23.1ポイント増加した	たまねぎ選果貯蔵施設1棟 選果機一式	1,094,520,000	521,200,000			260,600,000	312,720,000	22.3.31		
					【輸入急増野菜】(契約取引の推進に関する目標)たまねぎの全出荷量のうち契約取引割合を35.2ポイント増加	0.0%	-	37.5%	34.0%	35.2%	96.6%	契約取引の割合が34.0%に増加した										
オホーツク	北見市置戸町訓子府町	きたみらい農業協同組合	【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用(麦)】	生産性向上	【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用】 (穀類乾燥調製貯蔵施設等の利用率に関する目標) 再編後の穀類乾燥調製貯蔵施設等の利用率が80%以上	104%	-	68.6%	103.3%	119.0%	-4.7%	施設の稼働率が0.7ポイント低下した	保管サイロ 15基 サイロ冷却装置 6台 自主検定装置 一式 受入荷口 一式 空車計量装置 一式	1,386,000,000	659,375,000			726,625,000	22.5.28	目標年である平成23年度から2割程度増収が見込まれる「きたほなみ」へ全量品種転換となったが、起生期の低温傾向、7月の高温・干ばつ及びニバール菌の影響により低収となり取扱数量が減少したため、当初計画していた収量には至らなかった。この収量低下が取扱量に影響したことから施設稼働率も目標を達成するに至らなかった。 目標年ではきたほなみへ全面切替となったが、この地域での栽培技術の確立ができていないことは大きな問題点の一つであり、早期の確立が急務であることから、基本技術を再度関係機関と連携して早期確立に取り組み、またこれにより施設稼働率も向上を図る。		
					【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用(麦)】 (単収の増加に関する目標) 麦の単収の増加割合が15%以上	570kg/10a	-	446kg/10a	559kg/10a	667kg/10a	-11.3%	麦の単収が1.9%減少した										
オホーツク	美幌町ほか2町	美幌地方広域農業協同組合連合会	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】	生産性向上	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】 (病害虫による農作物被害の防止に関する目標) 病害虫の発生地域において、新規発生率を2.0%未満に抑制	0.28%	0.000%	0.097%	0.097%	2.0%	123.8%	シストの新規発生率を0.183ポイント抑制した	車両洗浄施設 3棟	67,200,000	32,000,000			35,200,000	22.3.24			
					【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】 (高品質品種の導入等に関する目標) 従来品種と異なる高品質品種の作付け面積を311.7%増加	ゆきつづら(1.7ha) きたかむい(0.0ha) 合計(1.7ha)(H21)	1.7ha	10ha	9.6ha	ゆきつづら(5.0ha) きたかむい(2.0ha) 合計(7.0ha)	149.1%	高品質な抵抗性品種を7.9ha増加した										

産地競争力の強化

(都道府県名:北海道)

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした整備事業)

※については目標未達成事業についてのみ記載した。

支庁名	市町村名	事業実施主体名	作物等区分① (対象作物・畜産等名)①	政策目標①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績	事業内容(実績)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価(※)	都道府県の評価(※)
						計画時(平成20年)	1年後(平成21年)	2年後(平成22年)	3年後(平成23年)	目標値(平成23年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他			
オホーツク	網走支庁管内	北見農業協同組合	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】【野菜(たまねぎ)】	品質向上	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】(高品質品種の導入等に関する目標)高品質栽培に取り組む馬鈴しょの出荷量を9.4%増加	1,078t	1,078.8t	991t	1,022t	1,179t	-55.4%	高品質栽培に取り組む出荷量が5.2%減少した	高速液体クロマトグラフ質量分析計 一式 残留農薬検査実験台及び強制排気設備一式	57,750,000	27,500,000			22.3.12	高品質栽培に取り組む出荷量の増加について、平成22年度の天候不順を鑑み減農薬栽培から慣行栽培にする生産者がシフトしていたが、平成23年度は、天候も持ち直し減農薬栽培に戻した農家もあるが、達成率は-55.4%となった。 また、契約取引割合の増加について、平成23年度は降雪被害があったため、廃耕があったことから達成率は19.6%であった。このことから、次年度以降は、残留農薬検査を徹底し、オホーツク産農産物における『安心・安全』をより一層、実需者にPRすることで、安定した馬鈴薯の特別栽培や玉葱の契約取引数量の増加を目指す。	高品質栽培に取り組む出荷量の増加について、平成23年度は、作付けが平年並みであったことで慣行栽培から減農薬栽培へ転換した農家が増加したが、平成22年度の天候不順の影響が大きく現況値まで回復せず、また、目標数値を大幅に下回る-55.4%となった。 また、契約取引割合について、平成23年度は天候不順等があり品質・収量低下に伴う契約取引量が増加せず目標未達成となっている。 このため、関係機関・団体(北見市、管内農協など)と連携の上、成果目標の達成を目指す。	
				需要に応じた生産量の確保	【野菜】(契約取引の推進に関する目標)玉ねぎの全出荷量のうち契約取引割合が5.1ポイント増加	3.7%	4.0%	4.7%	4.7%	8.8%	19.6%	契約取引の割合が1.0ポイント増加した									
十勝	更別村	更別村農業協同組合	【土地利用型作物】【畑作物・地域特産物】	品質向上	【畑作物・地域特産物(その他)】(作付面積に関する目標)従来品種と異なる高品質品種(きたろまん)の作付面積を20%増加	233ha	315ha	292ha	333ha	280ha	212.8%	高品質品種の作付面積を42.9%増加した	調製棟 1棟 乾燥機棟 1棟 低温保管施設 1棟 調製・貯留設備 1式	3,103,800,000	1,478,000,000			22.3.12			
				需要に応じた生産量の確保	【土地利用型作物(麦)】(新品種の作付面積の増加に関する目標)事業実施地区における新品種(きたほなみ)の作付面積の割合が100%	0%	1%	31%	100%	100%	100.0%	新品種の導入を100%確保した									
十勝	幕別町	幕別町農業協同組合	【畑作物・地域特産物】 【野菜】	品質向上	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】(高品質品種の導入等に関する目標)従来品種と異なる高品質品種(シンシア)の作付面積を478.9%増加	19ha	30ha	35ha	134ha	110ha	126.4%	高品質品種の作付面積を605.3%増加した	冷蔵貯蔵施設 1棟 設備一式	1,307,250,000	621,852,000			21.12.22	平成22、23年は記録的な猛暑のため収穫量が低下した年であったが、馬鈴薯・玉ねぎ共に目標数量を上回る集荷を行うことができた。玉ねぎについては契約数量目標はほぼ90%の達成となったが、実需の評価が年々上がってきており次年度以降の契約増加向け取組を強化致したい。馬鈴薯については、実需側で需要がなくなったため作付け品種を変えざるを得なかったが、本施設の稼働により安定した品質を保持できたため有利販売につながり、生産者の所得向上及び消費地への安定供給に寄与した。	本施設により、たまねぎの契約取引割合は目標値には達しなかったものの、着実に増加しており、来年度以降も増加が見込める状況となっている。また、シンシアについては、取引先の需要がなくなったこともあり作付は行っていないが、さやかやトヨシロといった品種での活用により施設の利用率は100%を超えている。来年度以降も利用率は100%を超えることが想定され、期待される。	
				需要に応じた生産量の確保	【野菜】(契約取引の推進に関する目標)全出荷量のうち契約取引割合が27.4ポイント増加	62.8%	63.9%	60.9%	87.3%	90.2%	89.4%	契約取引割合が24.5ポイント増加した									
十勝	幕別町	幕別町農業協同組合	【輸入急増野菜】	輸入急増農産物における国産シェアの奪回	【輸入急増野菜】(労働時間の削減に関する目標)はくさいの単位面積当たり労働時間を41.7%削減	1,943分/10a	-	1,222分/10a	1,222分/10a	1,132分/10a	88.9%	10a当たり労働時間を37.1%削減した	育苗ハウス 1棟 発芽室 一式	58,065,000	27,650,000			21.12.16	苗が定植できなければ、収穫できません。個人でセル成型苗を管理するためには、常時管理できる人がハウスに居る必要があります。作業労働力の軽減を考えますと、農協で集約したセル成型苗の管理は生産性の向上につながっていると思われず、また、生産者と協議を行なって播種日程を決めています。6月～10月上旬の150日間の出荷計画を建て、より有利な契約販売に努めることができます。また、野菜の価格動向により作付面積の変動はありますが、新設ハウスができた事により既存の自家育苗からの利用増加と新規作付者の増加を図り、組合員の有効利用により労働時間の軽減を促していきたいと思います。	はくさいの単位面積当たり労働時間の短縮は、計画時と比較し、大きく短縮されているものの、栽培体系全体がプラグ苗の栽培体系に変更できていないなどの課題もあり、目標値を達成できなかった。来年度以降についても、栽培体系の変更の促進を促すなど、目標値達成に向けた指導をしていく。 はくさいの契約取引面積の増加は、こちらも目標達成にいたらなかったものの、着実に増加しており、来年度以降も増加が期待できる。	
				需要に応じた生産量の確保	【輸入急増野菜】(契約取引の推進に関する目標)はくさいの全出荷量のうち契約取引割合を29.3ポイント増加	18.8%	26.6%	35.5%	41.5%	48.1%	77.5%	契約取引割合が22.7ポイント増加した									
十勝	帯広市	帯広市川西農業協同組合	【環境保全】	農畜産物の環境保全	【環境保全】(環境保全型農業に取り組む農業者の増加に関する目標)事業受益農家のうち環境保全型農業に取り組む農業者の割合が87.5ポイント増加	12.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	環境保全型農業に取り組む農業者の割合が87.5ポイント増加した	土壌土層改良(石れき除去) 1.87ha	1,071,000	510,000			21.12.3			
				需要に応じた生産量の確保	【環境保全】(環境保全型農業に取り組む面積の増加に関する目標)事業受益農家の経営面積のうち環境保全型農業に取り組む面積の割合が6.5ポイント増加	0.1%	9.0%	10.9%	10.3%	6.6%	156.9%	環境保全型農業に取り組む面積の割合が10.2ポイント増加した									

産地競争力の強化

(都道府県名:北海道)

事業実施主体等取組評価報告書(産地競争力の強化を目的とした整備事業)

※については目標未達成事業についてのみ記載した。

支庁名	市町村名	事業実施主体名	作物等区分① (対象作物・畜産等名)①	政策目標①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①					成果目標の具体的な実績	事業内容(実績)	事業費(円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価(※)	都道府県の評価(※)	
						計画時 (平成20年)	1年後 (平成21年)	2年後 (平成22年)	3年後 (平成23年)	目標値 (平成23年)				達成率	交付金	都道府県費	市町村費				その他
十勝	音更町	音更町農業協同組合	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】	生産性向上	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】(病害虫による農作物被害の防止に関する目標)病害虫の発生地域において、新規発生率を2.0%未満に抑制	0.453%	0.453%	0.436%	0.453%	2.0%未満	119.3%	病害虫の新規発生率を0.453%に抑制している	車両洗浄施設 2棟 コンテナ殺菌装置 一式	113,400,000	54,000,000		7,750,000	51,650,000	22.3.30		
					【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】(病害虫による農作物被害の防止に関する目標)病害虫の発生密度を2.0%低減	19.33個/g	19.33個/g	20.00個/g	9.67個/g	18.94個/g	2476.9%										
十勝	士幌町	士幌町農業協同組合	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】	生産性向上	【畑作物・地域特産物(ばれいしょ)】(病害虫による農作物被害の防止に関する目標)病害虫の未生地域において、新規発生率を1%未満に抑制	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%未満	125%	病害虫の新規発生率を0.0%に抑制している	車両洗浄施設 1棟 コンテナマット洗浄機 一式	13,335,000	6,350,000			6,985,000	22.3.18		
根室	中標津町	中標津町農業協同組合	【飼料基盤活用促進】	生産性向上	【飼料基盤活用促進】(飼料自給率の増加に関する目標)飼料自給率を25.2%増加	49.3%	49.3%	57.4%	61.7%	61.7%	100.0%	自給飼料率が12.4ポイント増加した	草地整備199.69ha	105,633,150	50,301,000			55,332,150	22.3.19		
					【飼料基盤活用促進】(飼養頭数の増加に関する目標)家畜飼養頭数を10.1%増加	5,464頭	5,464頭	5,737頭	6,015頭	6,015頭	100.0%	家畜飼養頭数が10.1%増加した									
根室	中標津町	中標津町農業協同組合	【飼料基盤活用促進】	生産性向上	【飼料基盤活用促進】(飼料自給率の増加に関する目標)飼料自給率を25.1%増加	49.1%	49.1%	57.2%	61.4%	61.4%	100.0%	自給飼料率が12.3ポイント増加した	家畜飼養頭数が10.2%増加した	98,197,050	46,760,000			51,437,050	22.3.19		
					【飼料基盤活用促進】(飼養頭数の増加に関する目標)家畜飼養頭数を10.2%増加	7,829頭	7,829頭	8,355頭	8,626頭	8,626頭	100.0%	家畜飼養頭数が10.2%増加した									
根室	中標津町	㈱開陽DAI	【飼料基盤活用促進】	生産性向上	【飼料基盤活用促進】(飼料自給率の増加に関する目標)飼料自給率を25.0%増加	49.2%	49.2%	61.5%	61.5%	61.5%	100.0%	自給飼料率が12.3ポイント増加した	草地造成 0.23ha 草地整備 48.86ha	804,799,800	383,235,000			421,564,800	22.3.19		
					【飼料基盤活用促進】(飼養頭数の増加に関する目標)家畜飼養頭数を10.4%増加	1,692頭	1,743頭	1,795頭	1,866頭	1,866頭	100.0%	家畜飼養頭数が10.3%増加した	飼料調製貯蔵施設 バンカーサイロ 1基 飼料調製庫 1棟 附帯機械 9台 牧場用機械 4台								